

ペンギンの会 ニュース

No.41 2021.5

桜を愛でる季節も早々に過ぎて新緑の季節を迎える中、皆さんはいかがお過ごしでしょうか？先の3.11のニュースを観て、東日本大震災からもう10年が経ったのだなと、あらためて考えさせられています。コロナ禍の中で、震災翌月から行ってきた「東日本大震災/福島第一原発事故被災『障害』者支援街頭カンパ」は、昨年3月には行えましたが、その後10月と今年3月と、ペンギンの会としては初めて中止せざるを得ませんでした。私たちもウイルスと闘うことになるとは本当に想定外でした。今何も出来ないでいることにもどかしさを覚えます。

私の話としては、連れ合いが癌になり、そしてその半年後、今度は私の左目が朝目覚めたら何も見えなくなっていたということがありました。右目は既に見えなくなっていたので、これで完全に失明したかと思いました。とてもきつい虹彩炎でした。治療から1年が経った今も、印字が濃い文字しか見えません。連れ合いの方も大手術の後、しばらく順調だったのに、半年後に再発して、抗癌剤治療を2週間に1度、一生続けていくことになってしまいました。

この1年半、想定外のことばかり起こりましたが、ずっと20年以上言い続けてきた「目の前にある、出来ることだけ、淡々とやっていけばいい…」、をするしか術がありません。

でも、こうして毎日の生活を変えることなく維持していけていることが、どれほど恵まれていることなの



だろうと思います。「介ゴ」者の人達に支えてもらい、生活をつくり、自立生活が維持し続けられていることに、心から感謝しています。たとえこの先、二人に過酷な事態が起こったとしても、必要なことを淡々とこなしてゆかだけです。だから今は、以前よりもおだやかな心境で暮らさせてもらってます。私は他者に関わってもらわなければ自立生活を維持できません。自立生活の中で「きれいごとではない対話と、現れた対立や緊張を通して赦し合うことの大切さ」を学ぶことができました。それが、いろいろな差別の問題や被災「障害」者のことを「人ごとではない」と考えるきっかけになりました。ですので、「コロナニモ負ケズ 病ニモ負ケズ イロイロアル差別ニ目ヲソムケルコトナク」皆さまと共に、生き抜いてゆきたいと思っています。

ペンギンの会も Zoom 会議をして、ボチボチと歩んでいます。メンバーそれぞれに大変そうですが、なんとかやっています。早くコロナがおちついて、街頭に立ち、被災「障害」者の支援活動等が再会できる日が一日でも早く来ますように祈ります。

いつもペンギンの会を支え続けてくださっている皆さんも、色々と大変なことを抱えておられると思いますが、どうぞお元気で、なんとか耐えてくださいね。私たちも耐え抜いてゆきます。

李清美

東純之介

日々ペンギンの会をご支援くださっている方々こんにちは。コロナ禍の中いかがお過ごしでしょうか？私こと東純之介は相変わらず資格取得に向けて頑張っております。なんと今年で8年目です。長いですね。まあ上には上がいますが。コロナ禍のせいで自宅に引きこもっていることが多くなったのでストレスから間食が増え、肥えました。分かりやすくいうとデブりました。やっぱりエルチキ、ファミチキ、ナナチキ全部制覇すると当然肥えます。皆さまコンビニには気をつけましょう。お金と健康を損ないます。他の近況としては相変わらず作業所に通い小銭を稼ぎ、英語や手話を独学で学習しております。本音を言えばまた働けるならば働いてみたいのですが前回働きすぎで体調を崩し職場に迷惑をかけ病院送りになった身(とは言ってもほとんどが定時内の勤務でしたが(^_^))としてはまた働いてみたいけど勇気も必要です。まあどのみちこのコロナ禍の中では働きたくても仕事が無いですから諦めています、コロナ後どうなるか？さっさと資格を持って自営業でできるのか？今後の展開を期待してくださいね。

「こんな事って許される訳がない!!!」

繁朋子

犯罪行為だらけの安倍政権に引き続いて何もかもスカスカグダグダの菅政権のおかげで、この何年もの間、毎日のニュース番組を観ながら何回このように思わされて来ただろうか。おかげで気候がどうであろうが、たとえ天気が快晴であっても何か少しいい事があったとしても、心から晴々とした気持ちで過ごせる日が少ない事だけでも人生の損失のような気になっているというのに、ここに来て「これでもか!!!」と思わせられる事が決定したと知った。

事もあろうか、今年の8月にパラリンピックの聖火リレーの採火式を、「津久井やまゆり園」で行なう事になったというのである。2016年7月26日に優生思想にかぶれた元職員のUによって障害者19名が虐殺され、24名の障害者と2名の職員が大けがを負わされ犠牲になった場所であることは皆さんもご存知の通り。虐殺事件後の県の委員会による調査でも、この「やまゆり園」では犯行が行なわれる以前から長年に渡り、複数の職員による障害者への虐待や監禁が常態化していたという調査結果も出ている場所だ。

新聞記事によると、「主催する相模原市が神奈川県に提案し、決議して決めたという。市長は

3月29日の会見で『事件を風化させず、誰ひとり取り残すことのない共生社会実現への誓いを込めて実施したい』と説明」とある。

元々優生思想の最たるものであるオリンピック。特に聖火リレーはゲルマン民族の優位性を強調し、後に障害者やユダヤ人撲滅を目指して大虐殺を行なったヒトラーが国威発揚のため復活させた催しであるという。その障害者版のパラリンピックの採火場として収容施設の「やまゆり園」を使って共生社会を謳うとはどういうことなのか?!

差別されている障害当事者が望む共生社会とは、地域で人々と共に当たり前で生活できることなのに。それを実現するためになるとは到底思えない。これでは本来の共生社会の意味まで歪められ、その実現に全く寄与しないではないか!!!

だから「やまゆり園」で採火式を行なう事は『優生思想や元職員の障害者虐殺を賛美し、障害者が地域社会で当たり前で生きることを認めず、虐殺された事実を曖昧にし、死んだことを讃える』という大変おぞましいメッセージをアピールすることになる。そんな事を許しては虐殺された障害者の無念な魂は決して浮かばれず、何重にも差別し踏みつけにし、貶める事になる。絶対許せることではない!!!

ユグです。

2019年12月発行のペンギンニュース
39号以来のご無沙汰です。

実は2019年のクリスマス前に大怪我をしてしまいました。その際、救急車出動やら入院やらの大騒ぎに発展し、退院後は大怪我の影響でそれまでの介護体制を根本から更新せねばならないほど身体機能が低下し、一日のほとんどをベッドの上で過ごす状態になりました。それで1年間、コロナ禍も相まってニュースの文章を書くことも適わずにいた次第です。

この上記の大怪我 & 大騒ぎについて詳しく書きたいのですが、この件は現在、別号でお目にかけるべく(鋭意!?)整理中なのでよろしくお願いいたします。

では以下より仕切り直しです。

筋璽主汗(キンジス・ハーン)自伝 その八

「筋璽主汗、在りし日の自立障害者が生前、何気なく発した一言を振り返り、故人を偲ぶこと」

本年2月2日、大変悲しく残念なことに、長きにわたり京都の自立生活運動を引っ張ってきてくださった、日本自立生活センター(JCIL)代表の矢吹文敏さんが呼吸器不全のためお亡くなりになりました(享年 76 歳)。

矢吹さんは、ペンギンの大きなイベントに発言者として臨んで頂いたことは数知れず、一個人

としても、故・三宅光男さんを偲ぶ集まりなどにも来てくださっていました。

矢吹さんは、もちろん出るところに出られれば、地域で生きる障害者が暮らしやすい社会実現のため数々の権利・獲得目標を勝ちとってこられた、「日本自立生活センター代表の矢吹文敏氏」という当然の紹介のされかたでしたが、大きなイベントではない時のペンギンの集まりには、「JCIL の矢吹さん」ではなく、普段着の自立障害者仲間として本当に気楽なスタンスで接しておられました。いつもこちらが思わず眼を剥いて「エエーッ!？」と両手を挙げてのけぞるような親父ギャグを連発して、「キシキシッ!」と、さも愉快そうに笑いながら気持ち良くお酒を楽しまれていました。

ユグ個人としても、同じ向島に住むご近所さん同士で、引っ越し祝いの会にお招きいただいたり、夕方の買い物時に散歩されておられる矢吹さんと奥様にすれ違ってあいさつして行くなど度々でした。

矢吹さんが京都での自立生活運動で残していかれた数々の大きな足跡をユグが書かせてもらうなど、きわめて畏れ多くて、烏滸がましくて、恐ろしくて…です。

それで今回は、かなり以前のある集まりで矢吹さんがポツリと言われた一言を紹介して、在りし日を偲びたいと思います。

日時はよく覚えていないのですが、もう十数年前の秋頃でしたか、同志社大の教室を借りてベ－シックインカムについて話をする会に参加していた時の話です。

出席者は年齢・職業を問わず 20 名前後だったでしょうか、終わりかけの時間に思わぬ方向へ話が逸れて、「男女の出会い」についてどう思うのかという、実に他愛のない会話になりました。

その時に矢吹さんが、「(いくら自分が)障害者だからって、出会いの場が福祉関係しか無いなんて、オラそんなの、やだよオ!?!」とご出身の山形訛りで話されていました。その時、傍らの席で聴いていたユグは思わず、「いや、まさしくその通りです！」と手を打って叫んでいました。

長年、運動を引っ張ってこられたことと同時に、上記のようなある意味、本音がいっぱいトークも何の銜いもなくサラリと言える方だった矢吹さん。ユグから見ていて気持ちがスカッとするというか、「○○○○の矢吹文敏さん」という改まった呼ばれ方以前に、「うわ、何かこのおっちゃんエエやんか～。オレも友だちにしてくれはらんかな～」なんて思ってしまう魅力を存分に持っておられた方だと思います。

最後に、ある年の東九条マダンでの思い出をひとつ。

秋の青空のもと、矢吹さん・三宅さん・ユグの3人で話していた時のこと。

矢吹さんか三宅さんのどちらかが、障害者の

側から見た世の中を面白おかしくからかう発言が出て、3人ともそれがよほどツボにハマったのか、「グワーッハッハッハ！」と大声で高笑いになりました。

それを見知らぬ男性がびっくりしたような様子で、3人の障害者を凝視していたのが忘れられません。その人はもしかして、障害者同士が愉快げに底抜けの明るさで大爆笑している光景に出くわすなど初めてだったのかもしれない。

私たち自立障害者に大きな足跡を残してくださった矢吹さんの印象は、いつも茶目っ気たっぷりの明るい笑顔でした。自立生活の中で今後いろいろな課題や困難に直面することが出てくると思いますが、矢吹さんのあの明るさを忘れないで取り組みたいです。



2012年 ペンギンの会のイベントに参加された際の矢吹さん

【ペンギンの会に会費・カンパをいただいた皆様（2020年4月～2021年3月）】

（敬称略・順不同）

★月会費

小山弘 李清美 繁朋子 繁周作 田島信二

計 42,000 円

★年会費

松浦武夫 正司拓生 蒔田直子 森岡均

計 21,000 円

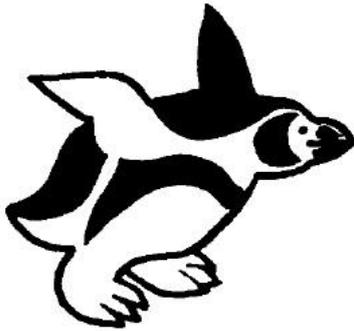
★カンパ

金満里 陳太一 矢野恵子 広岡一 北角和恵
馬庭京子 河村史子 東真理子 藤田光恵
高橋賀世子 岩本豊・京子 湯口憲子 浦辻宏昌
里中悦子 金順喜 又川秀喜 小谷田裕美子
NPO 法人しんせい 斎藤洋

計 155,578 円

総合計 218,578 円

以上の会費・カンパをいただきました皆様、そしてその他ご支援を頂いた皆様、心より感謝を申し上げます。



自立障害者グループ ペンギンの会

〒612-8411

京都市伏見区竹田久保町 62 番地

足立ハイツ竹田 132 号

(地下鉄烏丸線 くいな橋駅 徒歩 4 分)

電話 : 075-755-8177 (FAX 共)

E メール : pengin.kai@gmail.com